



## 2006年度 年次報告書



JIYD

特定非営利活動法人  
青少年育成支援フォーラム (JIYD)



## VISION

すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

無条件に受け入れる大人が一人でもいる  
眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所  
心身ともに健康な生活習慣  
人のためになることをする機会  
社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

## MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進めることが、J I の使命です。

## 理事長あいさつ

相手の話を良く聞き、自分の伝えたいことを上手に伝える〈コミュニケーション力〉。一時的な感情に流されない、言い換えれば”キレない”ための〈感情のコントロール力〉。責任ある行動を考え選択する〈意志決定スキル〉。相手の気持ち・立場になって考え行動する〈思いやりの心〉。

こうした能力・心を培い備えることは、一人ひとりの人間が家庭・学校・会社・地域といった「社会」で生きていく上で必要不可欠なことです。なぜなら、人は社会生活で常になんらかの問題に直面し、それを乗り越えていかなければならないからです。日々直面する問題を建設的に解決していく社会的能力、それが《ライフスキル》です。

今、青少年とその教育を取り巻くきわめて深刻な問題として学校でのいじめや自殺等の発生があげられます。これに対して、道徳規範の習得の必要性、安全な学習環境づくり、学校教師の質の維持向上、既存の学校教育制度の改革等が叫ばれています。

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」はこれらの課題の多くに対応しうる包括的な教育プログラムであると私どもは自負しております。青少年がライフスキルを習得しそのスキルを活用しながらお互いを尊重しあう安全な学校環境を築き地域社会が一体となって青少年の健全な成長を支援していくようデザインされています。

JIIDが普及を目指すライオンズクエストの広がりは現在、全国的な展開の初期段階に入りました。これは、私どもの普及活動に対する皆様方の継続的なご支援に加え、ライオンズクエストを全校で実施しているモデル校の関係者のご尽力によるものです。この場を借りまして、感謝と敬意の意を表したく存じます。特に、学校関係者の方々の、既存の履修教科の授業に加え、ライフスキル教育を導入された先見の明と不断の努力は特筆に価するものと存じます。

現在の社会的な状況の中、ライオンズクエストへの関心・期待が今後さらに高まることが予想されます。こうした関心・ニーズへの対応力を強化しながら、一人でも多くの青少年にライフスキルを届けるために、さらなる発展を目指して邁進していく所存です。今後とも、皆様の継続的なご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

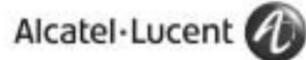


理事長 守隨 武雄

私たち、NPO法人 青少年育成支援フォーラム (JIYD) は、  
 青少年の健やかな成長に役立つ活動やプログラムを広げていく、  
 そのために青少年の育成に係わる大人や組織を支援しています。

支援者・協力者

助成：  
 ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会  
 スマイルハートクラブ  
 三井住友海上火災保険株式会社  
 財団法人森村豊明会  
 ライオンズクラブ国際財団  
 アルカテル・ルーセント



寄付：  
 京セラ株式会社  
 トヨタエルアンドエフ東京株式会社  
 松下電器産業株式会社



協力：  
 ライオンズクラブ  
 日本財団  
 International Youth Foundation (IYF)  
 IYF Global Partner Network  
 Lions Quest International Network



事業協働

ライオンズクラブ国際協会

- < LCIF4 大交付金事業実施地域 >
- ・330-A/C 地区 (東京・埼玉)
  - ・331-A/B 地区 (北海道)
  - ・331-C 地区 (北海道)
  - ・334-D 地区 (富山・石川・福井)
  - ・335-A/B/D 地区 (大阪・和歌山・兵庫)
  - ・335-C 地区 (京都・奈良・滋賀)



Lions Quest の著作権はライオンズクラブ国際財団に帰属します。

助成申請・報告

説明・体験会  
 相談対応

普及・広報・支援活動：

- ・ワークショップ
- ・体験会
- ・出張授業
- ・相談対応
- ・教材開発
- ・実施評価

企画提案  
 助成申請  
 報告

助成金  
 寄付金



ライフスキル教育  
 普及事業

青少年活動  
 支援事業  
 (休止中)

JIYD は日本国内における Lions Quest 実施指定団体です。

会費

報告・特典

学校 (教員)  
 青少年活動指導者  
 NPO (スタッフ)

児童  
 生徒  
 青少年

会員

個人会員：155名  
 法人会員：7社  
 学校法人 東京芸術学園 音響芸術専門学校  
 キッコマン株式会社  
 株式会社スペースシャワーネットワーク  
 TDK 株式会社  
 豊田三共株式会社  
 三菱地所株式会社  
 他1社



おいしい記憶をつくりたい。



# ライフスキル教育普及事業

ライフスキル教育の普及活動が全国に拡大した 2006 年度。  
ライオンズクラブと連携して全国各地で積極的に説明会・ワークショップを行い、  
多くの学校関係者に参加していただきました。  
また、より良い教材の開発作業、プログラムの効果を測定する評価、  
認定講師の養成を行い、さらなる普及強化を図っています。

2006 年度は、関東・関西地域中心から全国規模の活動へと裾野が広がりました。プログラムを導入する学校も増加し、把握しているだけで 39 校となりました。ライフスキル教育そしてライオンズクエスト・プログラムの教育現場での関心はますます高まっています。

## より多くの教育関係者にプログラムを届ける為に

### プログラムを学ぶワークショップの開催

学校教員を主な対象に、プログラムの理解を深め、実際に授業を行うことができるようになるための 2 日間のワークショップを全 26 回開催しました。参加者は計 741 名。このうち 8 回は、プログラムを全校で実施する「モデル校」を対象とする校内ワークショップとして実施。結果、モデル校は全国で 13 校となりました。また、6 回は昨年度より引き続き、教育委員会主催の夏季公式教員研修として東京都江戸川区、埼玉県川口市で開催されました。

( 過去 7 年間の累計は、ワークショップ開催回数 63 回、参加者数 1,680 人になりました。2006 年 12 月末現在 )

## 教育現場でのより良い実施を目指して

### フォローアップ・ワークショップと意見交換会の開催

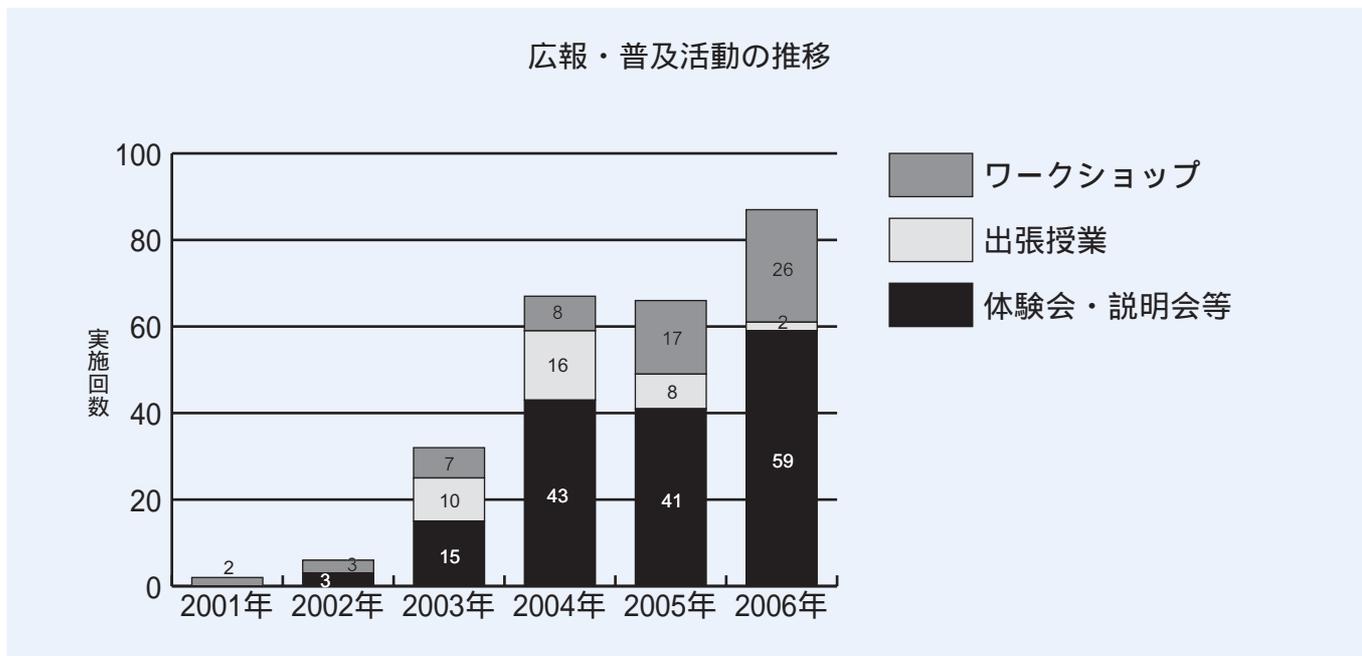
ワークショップ参加者を対象に、プログラムの理解を深めるためのフォローアップ・ワークショップを東京で開催しました。

また全校のモデル校の教員を対象に、プログラムのより良い実践をサポートするためのライオンズクエスト・プログラム意見交換会を 5 月に実施。モデル校 5 校の先生 13 人が集まり、日頃の疑問点や工夫などについて発表し合いました。



プログラム資料「概要書」「保護者会運営手引書」の完成  
昨年より改訂作業を続けてきたプログラム資料「概要書」「保護者会運営手引書」が完成しました。これまでは素訳だったプログラムの理論説明や保護者会を行うための資料がわかりやすくなり、「資料」としてまとめて配布・提供していた内容を「概

## 広報・普及活動の推移



要書」「保護者会運営手引書」「保護者用副読本」というそれぞれ別の冊子として配布できるようになりました。2006年7月より、ワークショップ参加者に配布を始めています。

また、「指導案」の添付資料として、授業で使用する掲示物やワークシートを収録したCD-ROMを作成しました。2007年4月からワークショップ参加者に配布する予定です。

### プログラムの効果を計る調査がすべて終了

昨年より開始したプログラムの効果を測定する調査（生徒へのアンケート調査、教員アンケート・面談、授業観察）が、モデル校である東京都狛江市立狛江第三中学校および三重県津市立豊里中学校の協力を得て終了しました。評価を委託した外部専門家による分析が行われ、調査結果をまとめた報告書が2007年3月に完成する予定です。

### 普及拡大のため、認定講師を養成

ワークショップにて講師を務める「認定講師」を増員すべく、プログラムの著作権を持つライオンズクラブ国際財団よりシニアトレーナーを招聘し、1年間かけて講師養成を行いました。2007年1月に1名増え、全5名の体制となります。

### さらなる全国普及のために

#### ライオンズクラブへの働きかけ

プログラム普及活動のパートナーであるライオンズクラブに協力を呼びかけるため、説明会・体験会を39回開催しました（3,366人参加）。また、11都道府県において、プログラム普及活動を後押しすべく、事業提案を行いました。

#### 教育関係者を対象とした説明会・体験会の開催、学校での出張授業

プログラムに関心を持つ学校や教育委員会等を対象とした説明会・体験会・出張授業を20回開催しました（1,180人参加）。

# 子どもの学びたいと 大人の教えたいを繋ぐ ライオンズクエスト



子どもが学校で学びたいこと

まわりの人と仲よくつきあう力、コミュニケーション能力

大人が教えたいこと

人間関係を築く力

「友達と仲良くするにはどうしたらいいの？」  
「していいことと、良くないことを判断するには？」  
「どうすれば自分の気持ちを上手に伝えられるの？」

子どもが、こうした難しい状況や悩みを自分で乗り越えていくための力を身につけ、自分を、そしてまわりの人を大切にする心を学ぶ。

その手助けをするのがライオンズクエストです

ライオンズクエストにはたくさんの授業が詰まっています。

意志決定をする授業、上手に話を聞く授業、感情のコントロールについて考える授業・・・

このようなライフスキル（技術・能力）を繰り返し練習して、日常生活で実践できるようになる、それがライオンズクエストの授業です。



子どもの学びたいと大人の教えたいを繋ぎます。

感情的にならないで思ったこと、感じたことを相手に伝えることが大切だと思った。

中学3年生、授業「感情を上手に伝える」を受けて

これから大人になるにつれて、色々なことがあると思うけれど、自分の決めた目標を最後まであきらめずに達成しようと思います。

中学3年生



教育現場で実践したいことだらけの2日間でした。

男性・教諭、20代

以前は家庭・地域で学んだことを、今は学校で教えていく必要があると思うので、そういった意味でも現在の子供達に必要な内容が多くあり良かったと思います。

女性・教諭、30代

このプログラムは人間関係をつくっていくのに有効。

男性・教諭、40代

地元のライオンズクラブと連携しながら、市内各中学校の全職員が受講できるための環境づくりについて、早速話をさせて頂きたいと思っています。

男性・校長、50代

地域の学校に導入して頂きたく、PRする為に参加した。非常に良かった。

男性・ライオンズメンバー、60代

頭で理解するだけでなく体験を通して学ぶので、子どもたちは実際の生活で活用できるのではないのでしょうか。

男性・ライオンズメンバー、50代

地域でパイロット校を1校選び、ライオンズで支援してあげたい。

男性・ライオンズメンバー、40代



## 第5期事業年度 収支計算書 2006年1月1日～2006年12月31日

## 収入の部

(単位:円)

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
会費収入	個人	850,000	1,050,000	-200,000
	法人	2,200,000	1,400,000	800,000
	会費収入小計	3,050,000	2,450,000	600,000
事業収入	ライフスキル事業:ワークショップ参加費	3,330,000	5,882,000	-2,552,000
	その他	1,000,000	4,065,146	-3,065,146
	事業収入小計	4,330,000	9,947,146	-5,617,146
助成金収入	ルーセント・テクノロジー財団	16,297,000	11,738,500	4,558,500
	ライオンズクラブ国際財団	5,580,000	7,955,012	-2,375,012
	ライオンズクラブ330C地区	240,000	1,477,662	-1,237,662
	ジョンソン・エンド・ジョンソン	0	2,150,000	-2,150,000
	その他財団	1,000,000	1,459,368	-459,368
	助成金収入小計	23,117,000	24,780,542	-1,663,542
寄付金収入	使途指定寄付金	0	1,180,000	-1,180,000
	一般寄付金	400,000	492,000	-92,000
	寄付金収入小計	400,000	1,672,000	-1,272,000
その他収入	受取利息	200	2,950	-2,750
	雑収入	9,800	73,154	-63,354
	その他収入小計	10,000	76,104	-66,104
当期収入合計(A)		30,907,000	38,925,792	-8,018,792
前期繰越収支差額		29,089,655	29,089,655	0
収入合計(B)		59,996,655	68,015,447	-8,018,792

## 支出の部

(単位:円)

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
事業費	青少年健全育成支援事業	0	375,718	-375,718
	ライフスキル教育普及事業	24,760,000	29,025,887	-4,265,887
	広報事業	580,000	529,931	50,069
	事業費小計	25,340,000	29,931,536	-4,591,536
管理費	人件費	2,120,000	2,253,996	-133,996
	通信費	242,000	270,216	-28,216
	事務用消耗品	275,000	289,179	-14,179
	交通費	375,000	360,430	14,570
	家賃・リース料	573,000	572,820	180
	外注費	320,000	371,655	-51,655
	その他	330,000	250,369	79,631
	管理費小計	4,235,000	4,368,665	-133,665
当期支出合計(C)		29,575,000	34,300,201	-4,725,201
当期収支差額(A-C)		1,332,000	4,625,591	-3,293,591
時期繰越収支差額(B-C)		30,421,655	33,715,246	-3,293,591

注)「管理費」は、総務・経理等の管理部門の経費です。

各事業専任者の人件費及びその他の直接経費は、「事業費」に含まれています。

# 貸借対照表 2006年12月31日現在

## ●資産の部

大科目	中科目	金額
流動資産	現金・預金	27,760,967
	貯蔵品	2,165,676
	前払費用	155,175
	未収入金	7,694,742
	流動資産小計	37,776,560
固定資産	什器備品	149,348
	電話加入権	226,408
	敷金	300,000
	固定資産小計	675,756
資産合計		38,452,316

## ●負債の部

大科目	中科目	金額
流動負債	未払金	2,677,500
	未払費用	318,014
	前受金	391,000
	預り金	72,600
	I 流動負債小計	3,459,114
固定負債	長期未払金	602,200
	II 固定負債小計	602,200
負債合計		4,061,314

## ●正味財産の部

大科目	中科目	金額
正味財産		34,391,002
	内) 当期増加額	4,514,995
負債および正味財産額		38,452,316

注) 複数年度に跨るプロジェクトの助成金収入があるため、流動資産、特に現金・預金の比率が高くなっています。

# 監査報告書

## 監査報告書

2007年1月31日

特定非営利活動法人  
青少年育成支援フォーラム  
理事長 守随 武雄 殿

公認会計士

小坂 義人

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2006年1月1日から2006年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

1. 収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2. 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び定款（寄付行為）に準拠し、かつ、前事業年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2006年1月1日から2006年12月31日までの事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 2007 年度事業計画

2007 年度、J I は全国各地でのプログラムの更なる普及のため、引き続き説明会、ワークショップを開催し、多くの学校関係者に参加していただけるよう務めます。そして、多くの子どもたちにライフスキル教育を効果的に届けるために、プログラムを全校で実施するモデル校を増やし、継続的に支援していきます。

## 高まるライフスキルプログラムへのニーズ

昨今、学校教育現場では子どもたちに「生きる力」を身につけさせようと様々な取り組みがなされています。文部科学省が行っている教育再生会議での報告にも、授業を通して子どもたちに規律や社会人としての基本を具体的に教えていこうとする内容が盛り込まれています。

教育再生会議で提案された「3つの教育内容の改革」

1. 「ゆとり教育」を見直し、学力を向上する
2. 学校を再生し、安心して学べる規律ある教室にする
3. すべての子供に規律を教え、社会人としての基本を徹底する

社会総がかりで教育再生を  
～公教育再生への第一歩～  
「教育再生会議第一次報告」より抜粋  
文部科学省2007年1月

自分の気持ちを上手に伝える、自分の感情に流されない、相手の気持ちを思いやる、といった社会的能力＝ライフスキルは、本来子どもたちが日々のさまざまな場面を通して自然と身につけていくものでした。しかし社会環境が大きく変化した今、その学習の場は学校現場に求められています。

「生きる力」、健全な自尊心を育てるために、学校現場で奮闘する教員は、具体的かつ効

果的に学べる実践的な授業用プログラムを必要としています。ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」はそれに応えるプログラムとして、ますますニーズが高まっているのです。

## 2007 年度の活動

1. より多くの教育関係者がプログラムを知り学ぶ機会を

### ワークショップの実施

プログラムの実施を予定、検討する教育関係者を対象に2日間のワークショップを開催します。参加者を公募するワークショップに加え、全校でのプログラム実施を決定した学校での全教員対象の校内ワークショップ開催にも力を入れます。全国で35回開催予定です。

### 説明会・体験会の実施

プログラムに関心をもつ学校や教育委員会等を対象として、説明会・体験会を行います。

## ライオンズクエスト・プログラム普及展開状況（2006年12月末日現在）

### <ワークショップ参加者・開催数>

累計参加者数：1,680名

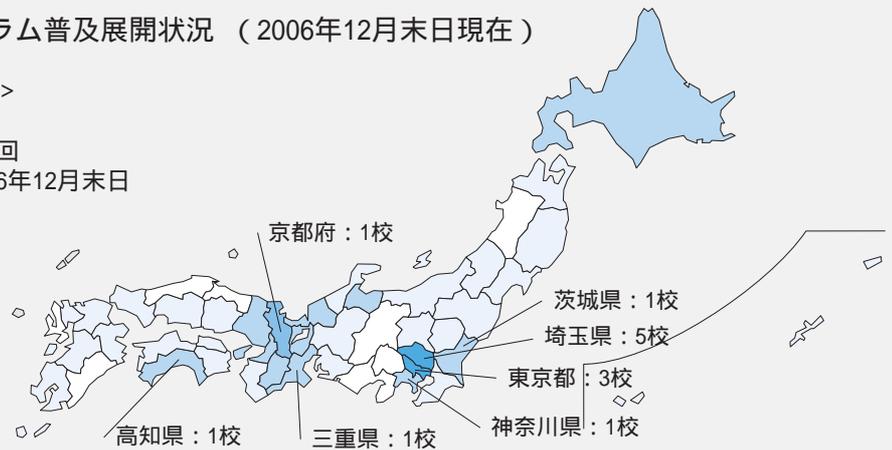
累計ワークショップ開催数：63回

集計対象期間：2001年7月～2006年12月末日

- 1～9人
- 10～99人
- 100～199人
- 200～499人

### <プログラム導入校数>

導入校数合計：13校



## 2. 教育現場でのプログラム実施をサポートする

### プログラム教材の充実

現行の教師用指導書（パイロット版）の内容を見直し、全ての授業を指導案の形にまとめる改訂作業を行います。完成後、ワークショップの参加者に配布・提供します。

### フォローアップ・ワークショップ

プログラムの効果的な実施を目指して、実践者同士の情報の共有・意見交換の場を設けます。全国4ヶ所で計5回開催する予定です。

### 学校でのプログラム実施支援

授業内容や年間の実施計画等についての相談に対応していきます。またモデル校教員のワークショップ参加費を119名支援します。モデル校教員を対象に意見交換会を2回開催する予定です。疑問に応え、教員間の情報共有を行う機会を提供します。モデル校に対し、1年間のプログラム実施状況の調査を年度末に行います。年間計画の作成・今後のアドバイスに役立てることを目的としています。

### ワークショップ評価・実施状況の調査

ワークショップの質の向上を目指して、参加者に対し、ワークショップ終了後のアンケートとフォローアップ調査を行います。ライフスキルの認知・理解度、ワークショップの効果・影響、プログラム実施状況などをより正確に把握することで、ワークショップの問題点や課題を明らかにすると同時に、これからの普及活動の指針としていきます。

### ライフスキル教育の情報提供

ワークショップ参加者に対して、メールによる情報提供を行います。現場での実践に役立つ内容を盛り込んだ「JIYDライフスキル教育メール」の配信を積極的に進めていきます。

## 3. 普及体制を強化する

### 普及パートナーとの連携強化

全国で継続的な普及活動を行うためには、各地のライオンズクラブとのパートナーシップが不可欠です。ライオンズ・メンバーを対象としたセミナーの実施、各地区の青少年育成事業の担当者等への働きかけなどを通じて、引き続き連携を強化します。

## 2006年度会員

(2006年12月末日現在)

## 法人会員

キッコーマン株式会社      T D K株式会社      三菱地所株式会社  
 学校法人 東京芸術学園 音響芸術専門学校      株式会社スペースシャワーネットワーク  
 豊田三共株式会社      他1社      (敬称略)

## 個人会員

会田 隆雄	石原 慎太郎	石原 典子	伊勢戸 敏信	伊藤 鴻介
植松 健	大河原 良雄	大久保 良平	大野 和夫	川崎 亮
喜志 房雄	北山 宏	久保田 裕子	西園寺 裕夫	酒井 谷美
佐渡 弘	塩原 秀明	篠沢 秀夫	清水 泰	白石 寿行
鈴木 宏	鈴木 信男	高氏 真弓	高橋 均	近森 正幸
土屋 眞	寺田 慶子	友永 泰弘	豊田 章一郎	中雄 三郎
中雄 久恵	仲宗根 宗督	中山 恒博	並木 茂夫	成瀬 健生
野村 和子	深谷 純子	藤森 康郎	前川 一郎	水谷 隆夫
湯浅 清文	吉岡 京一	他113名	(敬称略)	

## 私たちの活動をご支援ください

青少年育成支援フォーラムでは、一人でも多くの青少年にライフスキルを届けるために、法人・個人、多くの皆さまからのご支援をお願いしています。

## 【会員の募集】

年会費：個人・5千円(1口)～ / 法人・20万円(1口)～  
 1年単位(1月～12月期)の年会費制です(入会金無し)。会費は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。会員の方へは年次報告書を通じて活動のご報告をします。

## 【寄付のお願い】

会員入会の他に、寄付によるご支援も受付けています。ご寄付は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。また、用途をライオンズクエスト普及事業に限定したご寄付も受付けています。寄付金には決まった金額単位はありません。

## 【会員入会、寄付のお申込み方法】

会員入会・寄付のお申込みをご希望の場合は、以下までお問合せください。また、ホームページからもお申込み・お問合せいただけます。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム (JIYD)

担当：工藤・馬淵

Tel. 03-3440-3373 / Fax. 03-3440-4447 / E-mail: info@jiyd.org

www.jiyd.org

## 理事会

(2006年12月末日現在)

理事長	守隨 武雄	松下電器産業株式会社客員
副理事長	中雄 政幸	事務局長兼務
理事	栗田 収司	日本ビクター株式会社客員
	野村 彰男	早稲田大学大学院 公共経営研究科 客員教授
	藤本 厚子	元幼稚園教諭
	道 あゆみ	弁護士
監事	満島 章	前財団法人こども未来財団監事

## 事務局

(2006年12月末日現在)

中雄 政幸 (事務局長)  
 佐渡 涼子 / 田川 薫 / 田中 健介 / 中村 寛子 / 藤 香織 / 馬淵 英晃

---

発行者	中雄 政幸
発行所	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日	2007年4月27日
印刷	株式会社東京印刷サービス

---



JIYD

特定非営利活動法人  
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-63-302

TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486

FAX. 03-3440-4447

E-Mail. [info@jiyd.org](mailto:info@jiyd.org)

URL. [www.jiyd.org](http://www.jiyd.org)

